『VIEW next』高校版・2023年度「発問・課題設定をキーに見る　主体的・対話的で深い学び　授業実践」授業デザインシート

【教科・科目】	情報科・情報Ⅰ
【分野・単元】	コンピュータの基礎
【テーマ・作品】	CPUと論理回路
【設定時数】	全2時間　（50分授業を2コマ連続で実施）
【単元の目標】	CPUの原理を理解するために、論理回路の基礎を学ぶ

時数	学習内容	自校の生徒の特性を踏まえた各時間における教育目標（身につけさせたい資質・能力）	左記の資質・能力の「学力の3要素」への分類	授業の大まかな流れ	授業における3つの視点の学びに対する指導内容・教師の配慮			育成を目指す資質・能力の評価方法
					主体的な学び	対話的な学び（教師による場づくりへの配慮）	深い学び（教師による思考の活性化・深化への配慮）	
1	論理回路の基本回路を学ぶ。 半加算回路について学ぶ。	論理回路の学習は、情報の「科学的な理解」の基礎となるデジタル化の根底をなす部分となるので、論理回路の基礎的知識について、確実に身につけさせる。	知識	前時のふりかえり。 論理回路の基本（AND,OR,NOT)を学ぶ。 組み合わせ論理回路の基本を学ぶ。 半加算回路について学ぶ。	基本的知識の理解を応用的な内容に結び付けさせる。		他教科での学びとの関連性を意識させる。	基本から応用的な内容に思考を発展させる。
2	論理回路実験を行う。 基本回路の確認実験および半加算回路について実験を行う。		知識・思考力・協働性	1コマ目に学習した内容を、実際にICを使って確認する。 半加算回路・XOR回路を実現し、基本回路の理解と応用的な内容の理解を進める。	半加算回路の制作を通じ、基本的知識の定着を図る。	ペアで、実験に取り組むことで、お互いに足りない知識を補い合う。	半加算回路の先に、CPUがあることを感じさせ、技術の進歩を考えさせる。	基本から応用的な内容に思考を発展させる。
3								
4								
5								
6								